

豊岡市新文化会館 基本設計概要版

2021年3月

豊岡市

株式会社石本建築事務所

※ この基本設計概要版は、2021年3月に作成したものです。
実施設計の中で内容を変更する場合があります。

豊岡市新文化会館整備基本設計 概要版

1 新文化会館の必要性

豊岡市の文化創造の拠点である豊岡市民会館及び出石文化会館（ひぼこホール）は、様々なアーティストによる芸術鑑賞としての場や地元住民による各種発表、集会、式典、展示等の場所として長年親しまれてきました。

しかし、ひぼこホールは老朽化が著しく、安全性を確保することが難しいことから2018（平成30）年12月末をもって施設を廃止しました。また、豊岡市民会館についても老朽化により安全性や快適性、使い勝手やバリアフリー対応等、改修による対応が困難な問題が発生している状況です。

こうしたことから、両館のホール機能を統合する形で、新たな文化会館を整備することとなりました。

2 基本計画における理念

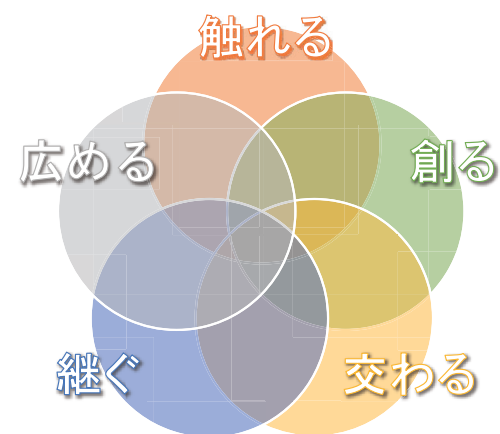
(1) 基本理念

豊岡市は、文化芸術によるまちづくりで「小さな世界都市－Local & Global City－」を目指します。新たな文化会館は、市民やアーティスト等の安定的で継続的な文化芸術創造活動を支える豊岡市の中核施設として、優れた文化芸術の振興普及や創造はもとより、文化芸術を通じて人々に安らぎや活力を与え、創造力や表現力を引き出し、市民生活を豊かにする様々な機会と場を提供します。

また、地域や世代を超えた交流活動を生み出し、豊岡市の魅力を内外に発信しながら、賑わいのあるまちづくりに繋げていきます。

そのため、基本理念と5つのキーワードを次の通り定めます。

人・地域・世代を繋ぐ
文化芸術交流拠点

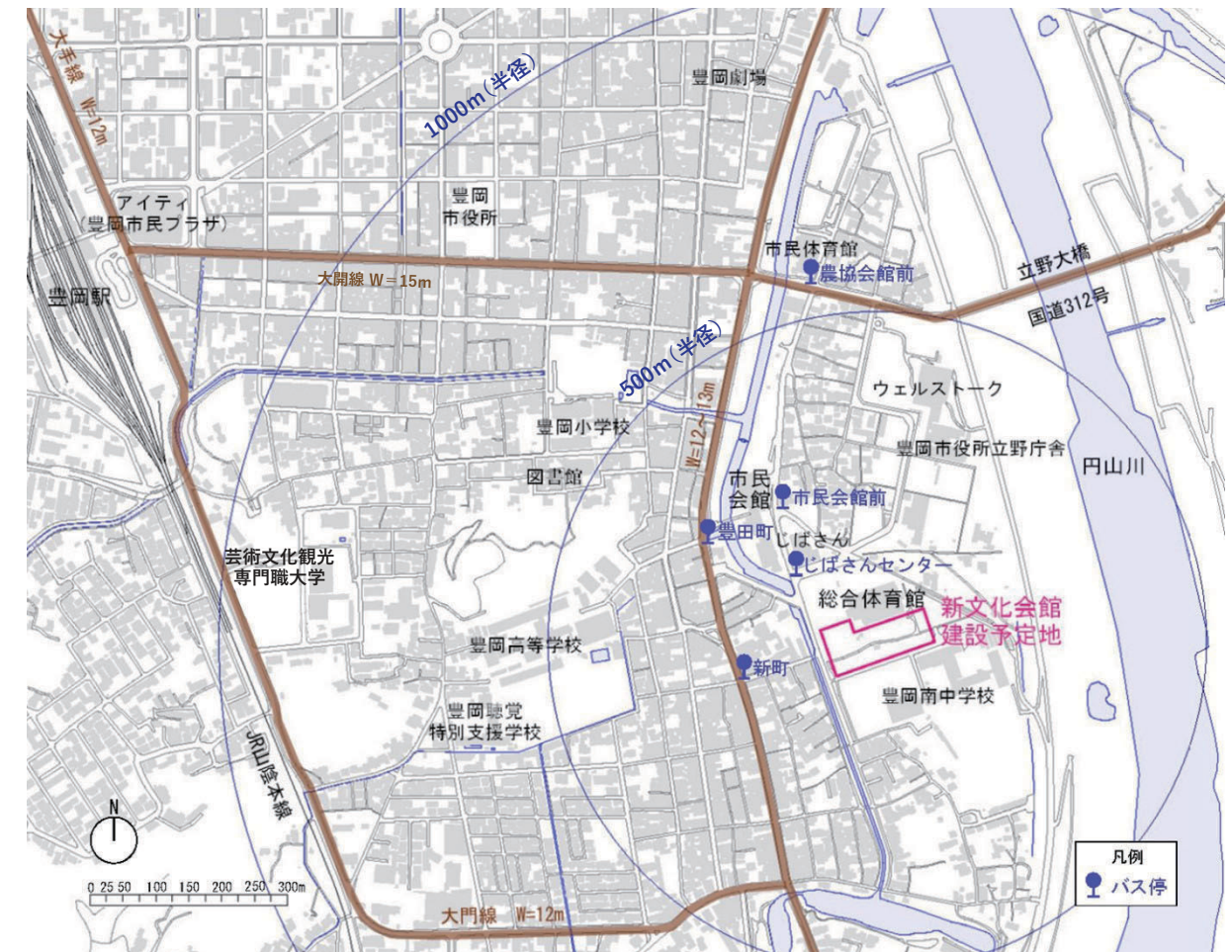


(2) 基本的な役割

- ア 市民が優れた文化芸術に触れる機会を提供する。
- イ 多様なレベルの文化芸術活動・創造拠点となる。
- ウ 地域文化を次世代に引き継ぐ。
- エ 交流を生み出す、市民の居場所となる。
- オ 文化芸術による「小さな世界都市づくり」を発信する。
- カ 他の文化芸術施設と有機的に連携し、文化芸術の力を最大化する。

3 建設地の位置

(1) 建設地の周辺状況



案内図

(2) 建設地の敷地概要

所在地	兵庫県豊岡市大磯町
都市計画区域	都市計画区域（都市計画公園 中央公園区域内）
防火地域	指定なし
その他の区域	22条適用区域、多雪区域(1.5m)
道路幅員	8m
敷地面積	約10,000㎡
用途地域	第一種住居地域、第二種住居地域(商業系又は工業系に変更予定)

(3) 建築概要

主要用途	劇場
工事種別	新築
建築面積	約4,700㎡
延べ面積	約6,050㎡（豊岡市民会館 6,754㎡）
建物高さ	約30.0m
階数	3階
主要構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造

4 施設計画

(1) 周辺施設をつなぐシンボルとなり、エリアの魅力を高める構成

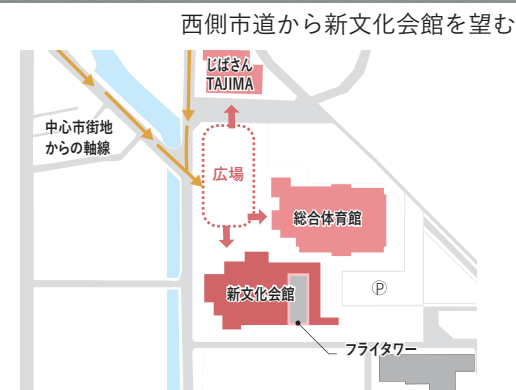
ア 豊岡市の建築的文脈とアイデンティティを反映したホール

豊岡市の誇る豊岡復興建築群の文脈を踏襲した鉄筋コンクリート造建築と市のアイデンティティともいえるコウノトリの翼をイメージした大屋根（コウノトリルーフ）がシンボルとなる外観です。



イ 広場を囲む3施設の連携

新文化会館・総合体育館・じばさん TAJIMA の3施設の連携を高めるため、総合体育館前広場をアプローチの中心とします。



広場へと視線が抜けるエントランスホール

(2) 大屋根の下で育まれる賑わいと交流・重ね使い

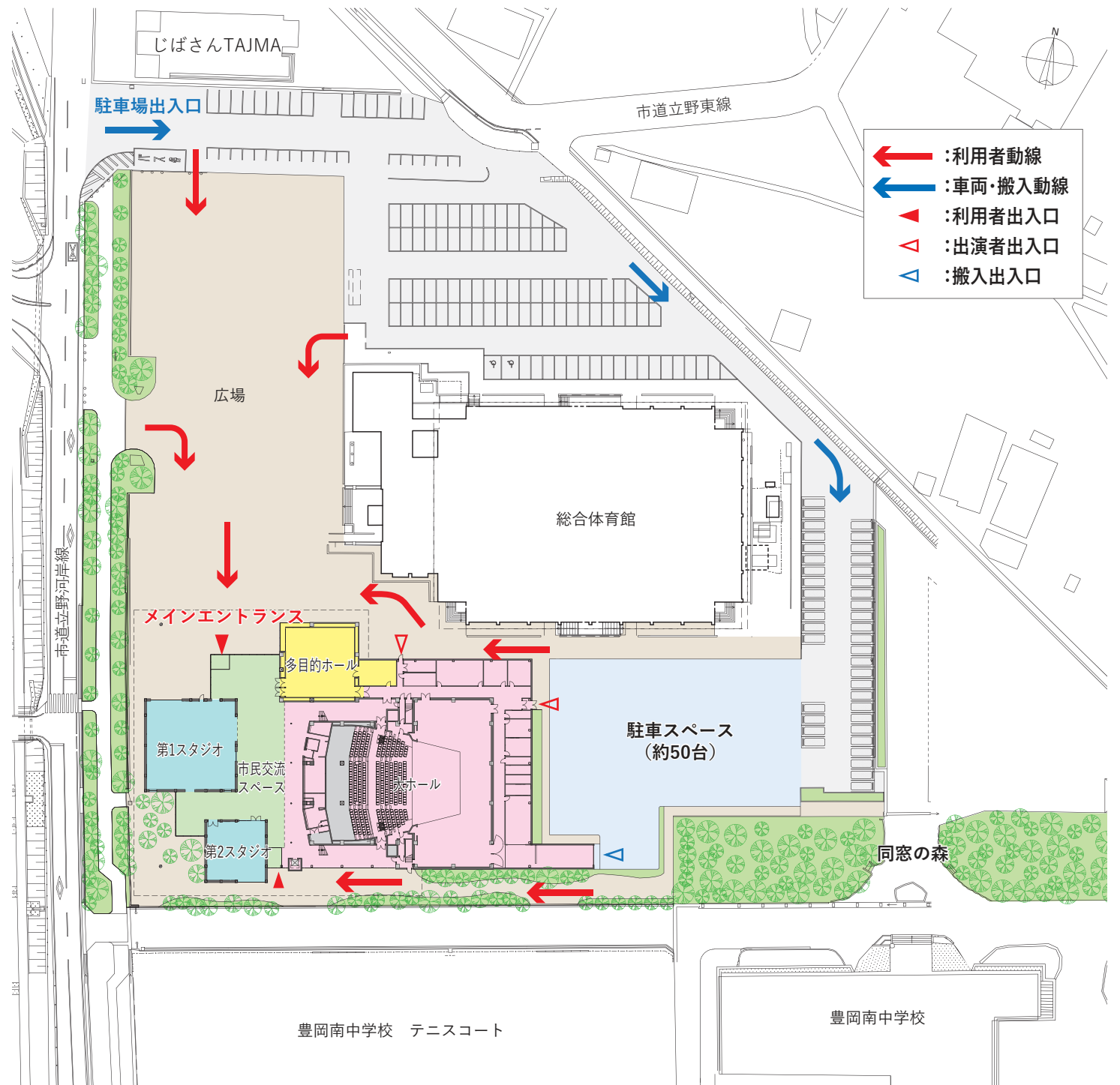
ア 4つのブロックと大屋根によるシンプルな構成

各部門を2つのスタジオに集約し、多目的ホール、大ホールを加えた4つのブロックが大屋根を支えるシンプルな構成です。それぞれのブロックは鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造とし、大屋根を支える頑丈な構造であり、ブロック毎（ホール、練習室等）の遮音構造も兼ねる合理的なシステムです。

イ 各所に快適な居場所をつくる市民交流スペース

大屋根の下のスタジオとホールに囲まれた空間を市民交流スペースとします。通常はホワイエと一体的に設えることで様々な使える広い交流スペースとして、ホール公演時には開場前の観客の待ちスペース、休憩時にはホワイエの客溜まりとしても利用できます。

すべての部門が市民交流スペースに接し、活動が立体的に見えることで施設全体の重ね使いを促進し、稼働率の向上と賑わいの創出につなげます。各スタジオ間には家具やカウンター等を設えることで多様な市民の居場所をつくります。



配置図



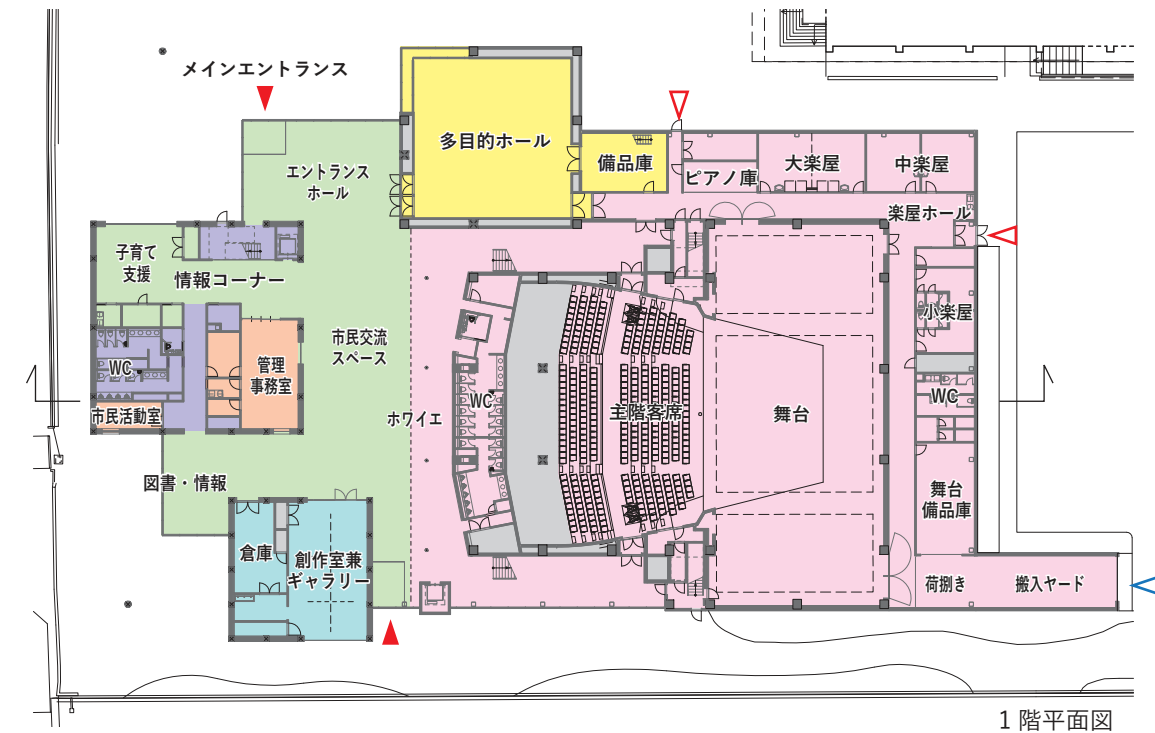
賑わいにあふれる市民交流スペース

(3) 駐車場の整備

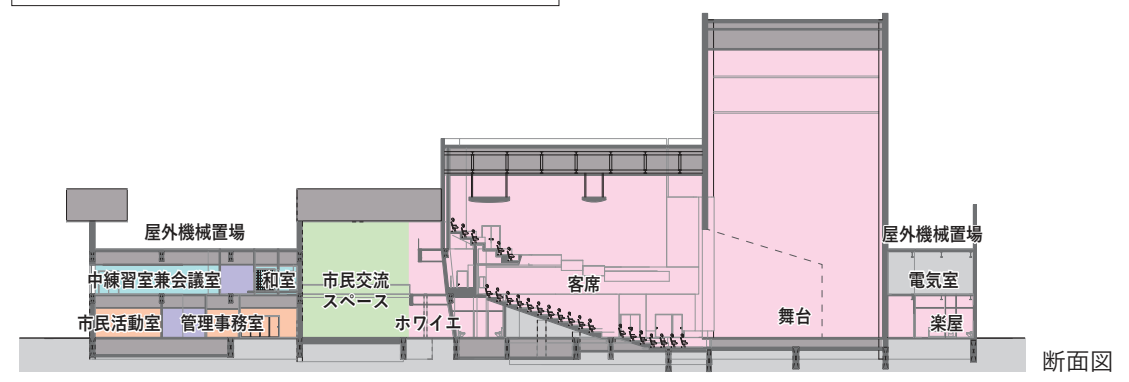
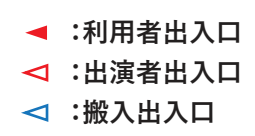
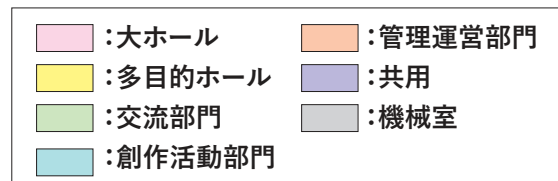
建物東側に新たに一般利用者の駐車場を約50台程度設けます。歩行者の動線と明確に分離し、利用者の安全性を確保します。

大規模イベント時には周辺駐車場の活用により駐車場機能を補完します。

車いす使用者用駐車場を確保し、メインエントランスまで段差等のないバリアフリーな計画とします。



1階平面図

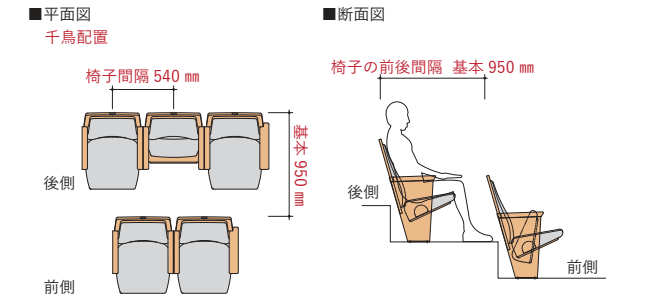


断面図

イ ゆとりある客席

客席数は約 780 席相当を確保します。
 (豊岡市民会館 1,118 席)
 客席は子どもや女性にも舞台が良く見える千鳥配置とします。椅子の間隔は 540 mm とし、前後間隔は 950 mm を基本として計画します。ゆとりのある客席とし、快適性を確保します。

車いす席は福祉のまちづくり条例の基準を遵守します。1 階席と 2 階席に分けて配置することで車いす席の選択に自由度が高い計画とします。また、1 階客席中通路より前列最後列を着脱可能な設えとすることで、1 列すべてを車いす席とすることも可能な計画とします。



ゆとりある客席の仕様

エ 待ち時間の少ないトイレ

空気調和・衛生工学会の「衛生器具の適正個数算定法」による算定方法に基づき、客席トイレの適正器具数を算定し、既存ホールと同等以上の個数を設置します。

各階にバランスよく配置し、利用者にとって待ち時間が少ない計画とします。
 バリアフリーの観点から、身障者用トイレ(みんなのトイレ)は各階に設置します。
 ベビーチェアやおむつ交換台等を男性用トイレにも設置し、ジェンダーフリーに配慮した計画とします。

ウ 開放的なホワイエ

開演前や休憩時間に憩い、くつろげる、明るく開放的な空間とします。
 ホワイエ単独あるいは市民交流スペースと一体的に利用できる設えとします。

(5) 多目的ホール

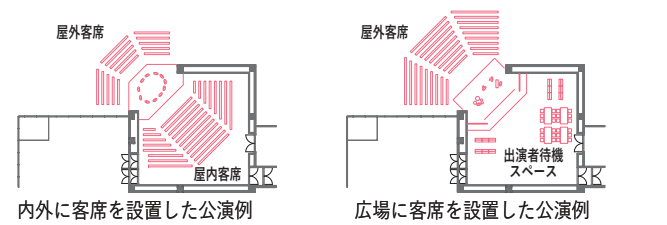
様々な用途に対応できる多目的ホール

大ホールの公演リハーサルや市民の日常的な練習のほか、小規模な発表会や展示会、大人数での会議等、様々な用途に対応します。



屋内外一体利用可能な多目的ホール

大ホール舞台袖とバックスペースの通路で直結し、大楽屋・控室としても利用できる利便性の高い平土間のホールとします。
 総合体育館前の開口部を開くことによって、広場との連携イベントが可能な構成とします。



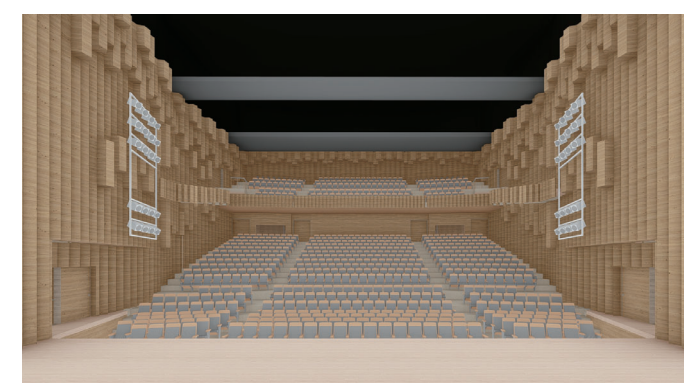
多目的ホールの利用パターン

(4) 大ホール

音楽をベースに様々な舞台芸術に対応する多機能ホール

ア 基本構成

優れた舞台芸術の鑑賞の場として、市民文化団体の活動や発表をはじめ、学校利用や成人式の式典利用、プロによる興行まで様々な利用に対応できる、利用者が使用しやすく鑑賞しやすいホールとします。
 客席と舞台の距離を 1 階 20m、2 階 23m とし、現市民会館と比べ約 3 m 近づけ、一体感を高める計画とします。



様々な舞台芸術に対応する多機能ホール

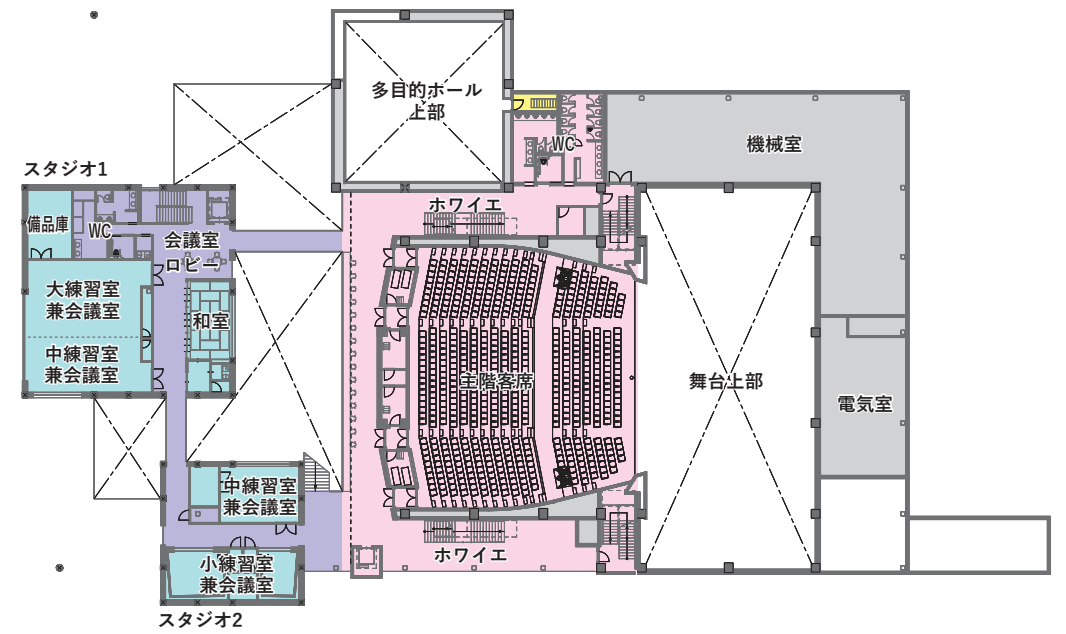
(6) 交流部門

ア 図書・情報スペース

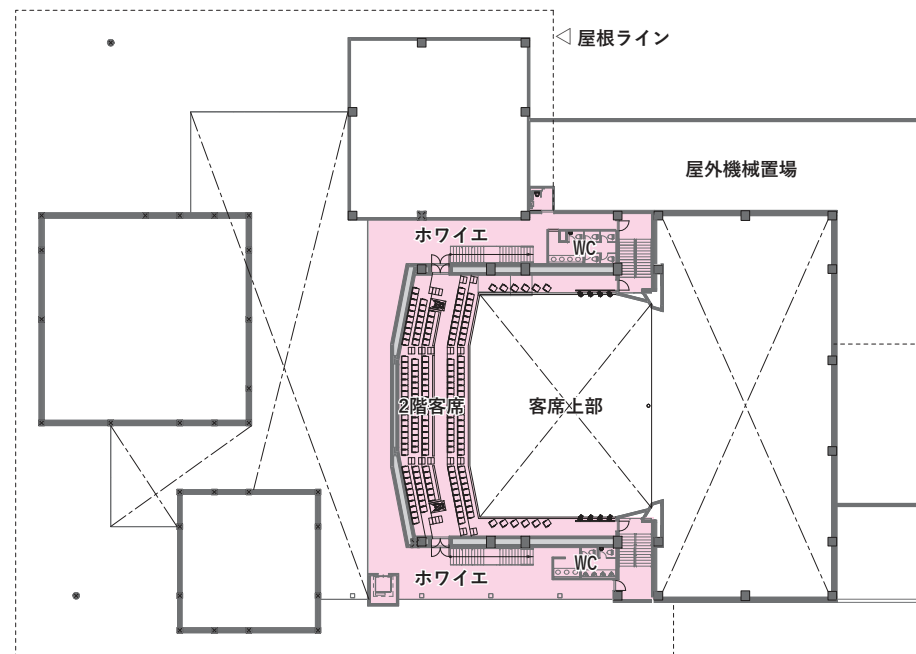
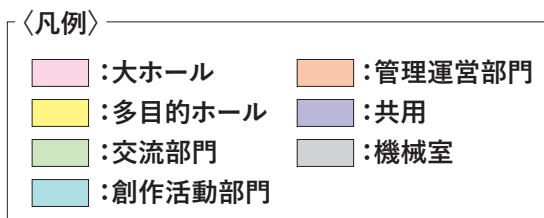
市内外の文化芸術活動等に関する情報を受発信したり、勉強・学習ができる空間として設えます。
 緩やかに分節し、心地よい空間として、中学生をはじめとした市民が利用できるように、Wi-Fi 環境の整備や電子機器を充電するためのコンセントを設置します。

イ 子育て支援スペース

授乳室・おむつ替えスペースなどを確保します。
 北側の広場からもわかりやすい位置に配置し、子育て世代の方々に利用しやすい計画とします。
 催事の時は仕切ることにより託児スペースとして使用できる設えとします。



2階平面図



3階平面図

(7) 創作活動部門

ア 練習室兼会議室

日常的な舞台芸術活動の練習の場として、バレエやダンス、演劇のほか、合唱や吹奏楽、バンド等の電気楽器を伴う練習等に対応する、大きさの異なる部屋を複数計画します。

(ア) 大練習室兼会議室

演劇やダンスの練習、合唱から中規模の会議まで一定の広さと遮音性能が求められる利用を想定した空間として整備します。

鏡張りの壁面や移動式バレエバーを設置します。

中練習室兼会議室と一体的に利用できる設えとします。

(イ) 中練習室兼会議室

楽屋や会議室としての利用もできるよう、必要な設備や備品を設けます。

(ウ) 小練習室兼会議室

高い遮音性能と吸音性能を備え、バンド練習などの電気楽器を用いた音楽練習等の利用を想定した空間として整備します。

イ 和室

水屋や炉、床の間など茶室としても利用可能な設備を設けます。

畳敷きとし、休憩室としても利用可能な設えとします。

災害時には救護スペースや宿泊スペースとしても活用できる計画とします。

ウ 創作室兼ギャラリー

1階に配置し、市民交流スペースと一体的に利用できる設えとします。

自主事業や貸館利用の際に舞台大道具や小道具の製作が可能な空間とします。

創作・製作した作品をそのまま展示することも可能な設備(移動間仕切壁等)を確保します。

5 防災計画の考え方

階段の数や幅、通路の幅など、災害時においても利用者が安全に避難しやすい計画とします。

地震や水害等の自然災害に対して、避難所機能の確保等に配慮します。

停電時に備えて、非常用発電設備を設置し、避難時に利用を想定するエリアの空調と電源の維持が可能な計画とします。

水害時に備え、非常用発電機や空調機等の重要設備は基本的に2階以上に設置します。

6 環境への配慮

エネルギー負荷の低減や再生可能エネルギーの活用等により省エネルギー化を図ります。

- ・外壁や屋根を高断熱化することで空調負荷の削減を図ります。
- ・大屋根を大きく張り出すことで直射日光を遮ります。
- ・大空間については床吹出空調など居住域を中心に空調するなど、空調負荷の削減を図ります。
- ・一般照明は全てLED器具とし、舞台照明についてはLED器具と従来器具の併用とします。
- ・照度センサーによる調光制御や人感センサーにより明るさの調整、点灯消灯を適切に行い、照明による負荷を最小限に抑えます。
- ・太陽光発電など再生可能エネルギーの活用を図ります。

7 工程計画

	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)
設計施工									
基本計画									
基本設計									
実施設計									
工事									
管理運営									
管理運営計画									
備品選定・購入									
開館準備									
市民会館解体									
実施設計									
解体工事									
外構(舗装)工事									